



TITLE:

表紙 (泌尿器科紀要 第47巻第10号)
購読要項・投稿規定・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙 (泌尿器科紀要 第47巻第10号) 購読要項・投稿規定・編集後記. 泌尿器科紀要 2001, 47(10): 767-768

ISSUE DATE:

2001-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114616>

RIGHT:

泌尿器科紀要

**Acta
Urologica
Japonica**

Vol. 47, No. 10 October 2001

**ACTA
UROLOGICA
JPN**

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Editor Emeritus : Osamu YOSHIDA

Editor : Osamu OGAWA

Deputy Editor : Akito TERAJ

Advisory Committee

Sadao KAMIDONO

Tomohiko KOYANAGI

Seiji NAITO

Tetsuro KATO

Takashi KURITA

Shin-ichi OHSHIMA

Tadaichi KITAMURA

Masaru MURAI

Ken-ichiro OKADA

Associate Editors

Shiro BABA

Katsusuke NAITO

Hidetoshi YAMANAKA

Haruo ITO

Akihiko OKUYAMA

Susumu KAGAWA

Taiji TSUKAMOTO

Editorial Board

Hideyuki AKAZA

Takashi DEGUCHI

Junnosuke FUKUI

Tomonori HABUCHI

Yoshihiko HIRAO

Tatsuo IGARASHI

Nobuhisa ISHII

Hiroshi KANAMARU

Mutsushi KAWAKITA

Kenjiro KOHRI

Atsuo KONDO

Manabu KURIYAMA

Tadashi MATSUDA

Ikuo MIYAGAWA

Mikio NAMIKI

Shinshi NODA

Hiroshi OHE

Yusaku OKADA

Seiichiro OZONO

Kenji SHIMADA

Taro SHUIN

Masayuki TAKEDA

Hiroyoshi TANAKA

Ken-ichi TOBISU

Shoichi UEDA

Sunao YACHIKU

Kosaku YASUDA

Yoichi ARAI

Shin EGAWA

Hideki FUSE

Masamichi HAYAKAWA

Senji HOSHI

Mikio IGAWA

Yoshiyuki KAKEHI

Hiroshi KANETAKE

Nobuo KAWAMURA

Takuo KOIDE

Yoshinobu KUBOTA

Masaaki KUWAHARA

Masahiro MATSUSHIMA

Yoshinori MORI

Yasunori NISHIO

Katsuya NONOMURA

Yoshiyuki OHNO

Tetsuro ONISHI

Young-Chol PARK

Toshiaki SHINKA

Yoshiki SUGIMURA

Mineo TAKEI

Saburo TANIKAZE

Hiroshi TOMA

Michiyuki USAMI

Hirohiko YAMABE

Masayoshi YOKOYAMA

Yoshiaki BANYA

Kimio FUJITA

Momokazu GOTOH

Eiji HIGASHIHARA

Kiyotaka HOSHINAGA

Kyoichi IMAI

Hidehiro KAKIZAKI

Yoji KATSUOKA

Taketoshi KISHIMOTO

Munekado KOJIMA

Hiromi KUMON

Zenjiro MASAKI

Tsuneharu MIKI

Teruhiro NAKADA

Osamu NISHIZAWA

Yoshihide OGAWA

Kenji OISHI

Yoshinari ONO

Hiroki SHIMA

Taizo SHIRAISHI

Koji SUZUKI

Hideo TAKEUCHI

Toshiro TERACHI

Yoshihiko TOMITA

Tsuguru USUI

Tamio YAMAUCHI

Tatsuhiro YOSHIKI

Managing Editor : Seiji MOROI, Shingo YAMAMOTO, Noriyuki ITO

Language Editor : Sumiko KAIHARA

Secretary : Teruo NAKAI

(2001.10.)

購 読 要 項 (1996年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円（送料とも）を前納する。賛助会員は20,000円（送料とも）とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

投 稿 規 定 (1996年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
 - (1) 総説、原著論文、その外の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁（400字×20枚）までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁（400字×12枚）までとする。
 - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5 または A4 判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め（ただし、文節の始めにくる場合は大文字）、明瞭に記載する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名（教授、部長、院長、科長、医長など）、著者名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。
例：山田、ほか：前立腺癌・PSA
 - (ロ) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語（英文）以内の Key words、抄録本文（250語以内）の順に B5 または A4 判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。ワープロ原稿可。
 - (ハ) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
 - (4) 英文原稿は A4 判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words（和文に準ず）、running title（和文に準ず）の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
 - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印（直接写真に貼付）などを入れ、わかりやすくする。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと（アルファベット順不可）。その数は30までとする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると…
雑誌の場合 — 著者名（3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする）：標題。雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. J Urol **144**: 1110-1114, 1990
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか：経皮的腎砕石術 (PNL) および経尿道的尿管砕石術 (TUL) にみられる発熱について。泌尿紀要 **33**: 1357-1363, 1987
単行本の場合 — 著者名（3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする）：標題、書名。編集者名（3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする）。版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: Urolithiasis Research. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976
例 4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学、診断 治療編。吉田 修編。第1版, pp. 259-301, 南江堂, 東京, 1986
- (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
- (8) 原稿は、オリジナル1部とコピー2部（図、写真は3部ともオリジナル）を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。
（原稿送付先）〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛
3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

昨年末の編集後記で，20世紀は「科学技術の世紀，戦争の世紀，スピードの世紀」であったと書いた。しかし21世紀最初の年である2001年は，皮肉にも「まだ戦争の世紀は終わっておらず，テロリズムという新しい戦略が実行に移された」年として歴史に刻まれることになってしまった。今回の炭疽菌事件を含むテロリズムは（本原稿を書いている段階では炭疽菌とテロリズムとの関係は証明されていないが），20世紀において発展した科学技術と情報通信技術（スピード）を駆使した戦略を用いており，高度に近代化された都市の基盤を狙うという意味でも従来のテロリズムとは異なった次元のものと考えられる。

テロ攻撃そのものは決して許されるものではないが，このテロリズムの背景を知ると，宗教や民族，歴史観が違えば，事態の解釈にはこれほどの差が生じるということにいまさらながら驚かされる。理不尽なテロリズムでも，解釈を変えると聖戦（ジハード）になる。テロリズム抑止を目的とする報道も，一般市民を巻き込んだ場合にはテロリズムとどう違うのだろうか。

グローバル化が声高に叫ばれる現在，価値観の一元化には警鐘を鳴らす必要があろう。アメリカ全土に星条旗が翻り，愛国心を鼓舞する演説が繰り上げられる光景に，なにか違和感と恐ろしさを感じるのは私だけだろうか。

（小川 修）